

当院で頸動脈遮断を伴う胸部大動脈瘤または内頸動脈狭窄症の治療を受けられた患者さん・ご家族様へ

研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、日常診療で得られた以下の診療情報を研究データとしてまとめるものであり、ご自身またはご家族の健康に関する新たな結果が得られるものではありません。また、研究のために、新たな検査などはいりません。この案内をお読みにになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に診療情報を使ってほしくないのご意思がある場合は、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。お申し出による不利益は一切ありません。お申し出以降は、参加拒否以前に収集した情報は削除します。ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】2020年10月15日～2022年1月26日の間に、当院で頸動脈遮断を伴う胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術または頸動脈内膜剥離術を受けた方

【研究課題名】頸動脈遮断を伴う胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術及び頸動脈内膜剥離術における麻酔方法の違いにおける局所脳血流の比較

【研究責任者】

国立循環器病研究センター 輸血管理部 部長 吉谷健司

【研究の意義・目的】

当院では通常、麻酔中に近赤外線分光法（赤外線の中でより波長が短い光を血液に照射することによって、組織の酸素飽和度や血流量、酸素代謝を測定する方法）を用いた脳血流測定を行なっています。全身麻酔中に麻酔薬によって脳血流量がどのように変化するのはまだわかっていません。そこで、本研究によって全身麻酔中に頸動脈を遮断した時に麻酔薬による脳血流に対する影響を検討することで、最適な麻酔方法とは何かを明らかにすることを目的としています。本研究の成果は、将来的に術後せん妄、脳梗塞の予防に繋がることを期待されます

【利用する診療情報】

年齢、体重、身長、性別、術式、術前合併症（高血圧、脳梗塞、脳出血、一過性脳虚血発作の有無）、術後合併症（術後1週間以内のせん妄、脳梗塞の発症）、脳血管の欠損もしくは狭窄部位の有無、腎機能（血性クレアチニン、血中尿素窒素値）、術中のデータ（CBF、NIRSによる脳内組織酸素飽和度（TOI）、酸素化ヘモグロビン（O₂Hb）、BFI、血中ヘモグロビン濃度（Hb）、ヘマト

クリット値（Hct）、動脈血酸素分圧（PaO₂）、動脈血二酸化炭素分圧（PaCO₂）、血圧、手術終了から抜管までの時間、退室までの時間、使用した麻酔法、麻酔経過（麻酔時間、手術時間、輸液量、輸血量、尿量）

【研究期間】 研究許可日より 2024年3月31日まで（予定）

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

二次利用の可能性がある場合

この研究で得られた情報を将来、二次利用する可能性や研究計画書を変更する場合があります。その場合は、研究倫理審査委員会での審議を経て、研究統括管理責任者の許可を受けて実施されます。二次利用する際に文書を公開する場合は、国立循環器病研究センター公式サイト（<http://www.ncvc.go.jp>）の「実施中の臨床研究」のページに掲載いたします。

【問合せ先】

国立循環器病研究センター 輸血管理部 部長 吉谷健司 電話 06-6170-1070